

## 令和7年度 学校経営報告

八王子市立宇津木台小学校

校長 松丸 渉

ビジョンはちおうじの教育に基づき、自分の「みち」を、自信をもって歩む力を育むために、これからの社会を担っていく児童に生きる力を身に付けさせること。そして、地域とともに成長し続け、学校・家庭・地域が連携して教育活動を進め、自分の住んでいる街に愛着をもち、その街に貢献していける児童を育成していくことが大切であると考えている。

宇津木台小学校が、開校以来築き上げてきた歴史と伝統を継承しつつ、急速に変化する社会状況や教育改革に柔軟に対応し、主体的、組織的に教育活動が展開される学校経営を目指す。

また、学校教育における「不易と流行」を見極めた教育活動の推進を図るとともに、学校教育を通してより良い地域社会の構築に寄与できる、社会に開かれた教育課程の実現に向け、地域運営学校としてより一層家庭・地域と連携・協働した教育活動の創造を図る。すべての児童の幸福を願い、「知」「徳」「体」の調和のとれた豊かな人間性をはぐくむとともに、将来どのような環境に置かれても、他者と協働しながらたくましく目の前の問題に立ち向かい、より良い生き方を選択できる「生きる力」を育てていく。

### 1 目指す学校

#### 【教育目標と目指す児童像】

児童が国際社会を逞しく生きる力を身に付け、生涯学ぶ意欲と向上心をもち続けることを目指す。

知 ○よく考え、すすんで学ぶ子〔学力の育成〕

自分の思いや考えを表現し、ねばり強く取り組む児童

徳 ◎協力し、思いやりのある子〔豊かな心の育成〕

他者の気持ちを考えた思いやりの行動ができる児童

体 ○体をきたえ、ねばり強い子〔健康な体と心の育成〕

自らすすんで心身をきたえ、健康の保持増進に努める児童

#### 【教育目標を達成するための目指す学校像】

##### 『笑顔あふれる 自分も友達も大切に作る学校』

##### (1)児童が成就感や満足感を味い学び合える学校

・全教育活動を通して、児童が主体的に学習に取り組み、自らの知・徳・体の成長を実感でき、自己肯定感を高められる学校。

##### (2)認め合い・励まし合い・高め合う学校

・関わり合い、学び合う活動を重視し、人権意識を高め、一人一人の個性を認め合える支持的風土のある学校。

##### (3)保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校〔開かれた教育活動〕

・学校運営協議会を核に、教育活動を保護者・地域に開き、情報の共有化を図り、地域とともに教育活動を進めていく学校。

・教育活動のねらいや成果を保護者・地域に説明し、課題の改善に努め成長し続ける学校。

・安全指導やアレルギー対応を確実にいき、安心して通える学校。

(4)連続性を大切にす学校〔保幼小連携・小中一貫教育〕

・就学前から入学後の9年間を見通し、保・幼・小・中の連携を充実させ、保育園・幼稚園と小学校、小学校と中学校の接続を円滑にしていく学校。

(5)一人一人を大切にす学校

・個別の教育的ニーズや、個に応じた支援を組織的かつ計画的に行っていく学校。

(6)教職員が専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学びあう学校【目指す教師像】

- ① 専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学び合う教師
- ② 人権を重んじ、言動に責任をもつとともに、常に学ぶ姿勢をもち、切磋琢磨する中で組織の一員としての役割を果たせる教師
- ③ 人権尊重の理念を尊重し、職務を真摯に遂行する教師
- ④ 「子供たちのために何ができるか」を考え、子供たちの良さを引き出せる教師

2 中期的な目標と方策

目指す学校像	到達目標	方策
児童が成就感や満足感を味わい学び合える学校	児童が、学習に対して主体的に取り組み、学び合いを通して、より深く追求できるようになる。	基礎学力の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びになるような授業実践を積み重ねていく。
認め合い・励まし合い・高め合う学校	児童が、学級・学年だけではなく、異学年とも豊かな関わり合いができるようになる。	支持的風土を醸成する学級の雰囲気づくりと、縦割り班活動の充実を図るとともに、自己肯定感の向上を図っていく。 いじめの未然防止の取組を充実させていく。
保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校	保護者や地域の声を生かして、児童が安心して学校に通い続けるようになる。	学校運営協議会での意見や学校アンケートをもとに改善を図り、教育活動の充実を図っていく。 安全指導やアレルギー対応を確実にいき、児童が安心して通えようにする。
連続性を大切にす学校	保育園や幼稚園、中学校と円滑な連携をすることで、新たな不登校が増えないようにす。	近隣保育園や幼稚園、石川中学校との連携を密にすることで、児童が安心して進学できるような環境づくりを行う。
一人一人を大切にす学校	全員が相談できる大人がいて、外部につながっていない不登校が0人の状態を続けていけるようにす。	特別の支援を必要とする児童や不登校（傾向）児童のための環境整備や組織的な対応を行う。
教職員が専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学びあう学校	専門性をもち、安定した学級経営が行えるようにす。 校務分掌に責任をもって主体的に取り組み、高め合えるようにす。	校内の研究・研修だけではなく、八王子市の研究会にも参加させ、教科等の専門性を高めるとともに、職層に応じた組織的な人材育成を行っていく。

3 令和7年度の取組と重点目標と方策

◎達成度 《A:よく達成できた B:おおむね達成できた C:もう少し D:達成できなかった》

(1) 児童が成就感や満足感を味わい学び合える学校にするために

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
授業改善	<p><b>○校内研究では、年4回の研究授業を実施して、主体的・対話的で深い学びとなるような授業改善を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間4回の校内研究では、講師を招き、算数の授業についてご指導いただき、授業改善を図る。</li> <li>・基礎・基本の定着を図るとともに、自ら問題解決をできる児童の育成を目指した授業実践を、年間を通して進めていく。</li> </ul> <p><b>○個々の授業の課題を明確にして、授業改善を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職の授業観察を年3回行い、授業力の向上を図る。</li> </ul> <p><b>○OGIGAスクール構想を踏まえ、ICTの効果的な実践を検討し、全学級の全児童が活用できるようにしていく。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級において、児童一人一台の学習用端末の活用を推進し、年間指導計画を基に授業実践をするとともに、全学年が当たり前のよう学習用端末を活用することができるようにする。</li> </ul> <p><b>○教員がお互いに学び高め合えるOJT研修を実施し、授業力・指導力の向上を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹教諭、主任教諭が中心となって、教員同士が高め合うOJT研修を年10回以上実施し、教員全体の指導力や授業力の向上を図る。</li> </ul>	<p>☆年間4回の研究授業では、外部講師に来ていただいてご指導を受け、授業改善を図ることができた。</p> <p>☆研究テーマを意識した授業実践を行うことができた。</p> <p>☆管理職による授業観察は年3回確実に行った。それに加え、初任者や3年時の教員は、巡回指導も行うことができ、授業力の向上を図ることができた。</p> <p>☆1年生の1学期から、学習用端末の活用をはじめ、全児童が活用できるようになっていた。</p> <p>☆OJT研修は、年間10回以上実施できた。お互いに学び高め合う風土が醸成されてきていた。</p>	B
基礎・基本の定着を図るために	<p><b>○第2回の八王子市の学力調査で、平均点で基礎的な内容では70%以上の定着、応用的な内容では60%以上を目指す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八王子市の学力調査の結果を基に、学力定着へ向けての各学年での取り組みを検討し、課題を明確にして、基礎・基本が確実に定着するような授業改善に取り組む。</li> <li>・学力調査後には、ドリルパークを活用して、個々</li> </ul>	<p>☆第2回学力調査の結果では、基礎的な内容について、国語では70%以上、算数では65%以上であった。応用については、60%を超える学年はなかった。課題を明確にして、学力の定着を図っていく必要がある。</p> <p>☆家庭学習や長期休業中も活用</p>	C

	<p>の課題に応じた問題に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。</p> <p><b>○掛け算九九の確実な定着を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の九九検定を3学期に実施し、100%の定着を図る。</li> </ul> <p><b>○はちおうじっ子ミニマムで、70%の児童の習得を目指す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はちおうじっ子ミニマムでは、できなかった問題に繰り返し取組ませ、第6学年の70%の児童に定着が図れるようにする。</li> </ul> <p><b>○学習用端末を活用して、基礎・基本の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用端末を活用した家庭学習の取組を、年間を通して適宜行っていく。</li> </ul>	<p>して、ドリルパークに取組み、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>☆3学期に九九検定を実施し、2月までに取組めた児童には、100%の定着を図ることができた。</p> <p>☆はちおうじっ子ミニマムでは、類似問題に繰り返し取組ませてきた。70%の児童には定着が図れなかったが、国語では、約55%、算数で約72%の児童の得点の向上が見られた。</p> <p>☆学習用端末は、基本的に毎日持ち帰り、課題を提示することができた。</p> <p>△学習用端末を活用した課題の内容等については、今後検討していく必要がある。</p>	
地域教材や地域人材を活用した教育活動の推進	<p><b>○地域と共同した教育活動を推進し、地域の教材や人材を活用して郷土学習の推進を図っていく。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の中で地域の人的・物的教育資源を活用した教育活動を実践していく。</li> <li>・生活科や総合的な学習の時間等では、地域の教材を活用した教育活動を進めていく。</li> </ul>	<p>☆車人形のオンライン学習を実施し、郷土についての理解を深めることができた。</p> <p>☆低学年を中心に、久保山公園を活用した教育活動を、年間を通して実践することができた。</p> <p>☆3年生は、地域の方の協力を得て、七輪体験や昔遊びの学習を実施することができた。</p>	B
読書活動の充実について	<p><b>○朝読書や読み聞かせ、電子書籍を効果的に活用し、読書活動の充実を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の朝読書や読み聞かせ、読書週間を設定したり、電子図書も活用したりしながら、読書への興味が継続していくようにする。</li> </ul>	<p>☆地域・保護者の皆様の協力を得ながら、年間を通して、読み聞かせを行うことができた。年間を通した図書の貸し出し冊数は、2月末までで14000冊以上であった。</p> <p>☆電子書籍の活用については、市の図書館からの報告待ちである。</p>	B
キャリア	<p><b>○はちおうじっ子キャリアパスポートを活用し</b></p>	<p>☆「はちおうじっ子キャリアパスポ</p>	B

<p>教育の推進</p>	<p><u>て、将来への夢や希望を育み、目標に向けて努力する態度を養い、自信をもたせ自己有用感の向上を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、「はちおうじっ子キャリアパスポート」を活用し、児童一人ひとりが目標設定や行事などの振り返りを行う。</li> </ul> <p><u>○地域を活用したキャリア教育を推進していく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の総合的な学習の時間では、職業調べやゲストティーチャーの話を聞くことで、職業理解を推進していく。全教育活動を通してキャリア教育の推進を図っていく。</li> </ul>	<p>ート」の活用は、年間を通して確実に行うことができた。</p> <p>☆キャリア教育のゲストティーチャーとして、外部人材の方に来ていただき、職業理解を深めることができた。</p> <p>☆キャリア教育の充実に向け、3学期には、地域の方に来ていただき、全校で椎茸栽培の取組を行うことができた。次年度からのキャリア教育の準備を、着実に進めることができた。</p>	
--------------	---	---	--

(2) 認め合い・励まし合い・高め合う学校

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
<p>豊かな人間関係の育成</p>	<p><u>○児童会活動の中に、いじめに対する未然防止の取組を取り入れ、児童がいじめに対して主体的に考え行動できるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表委員会がいじめ防止のための取組を検討・実施し、主体的にいじめ防止への意識を高めていく。</li> </ul> <p><u>○「特別の教科 道徳」では、多面的・多角的に物事をとらえ、深く考えたり議論したりする授業や全教育活動を通して道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」では、多様な考えを共有する意見交流の時間を設定した授業実践を行い、道徳的実践力を育成する。</li> <li>・道徳授業地区公開講座では、講演会を実施し、保護者とともに子供たちの健全育成について考える時間を設定する。</li> </ul> <p><u>○全教育活動の中で、「認め合う・励まし合う・高め合う」集団活動を通して支持的風土のある集団の育成を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の教育活動の中での、「認め合い、励まし</li> </ul>	<p>☆代表委員会では、小中一貫の取組のありがとうツリーやシロちゃんのいいところ見つけの取組をすることができた。</p> <p>☆道徳授業地区公開講座では、2名の外部講師を招聘して、命の大切さについて子供たちに考えさせることができた。</p> <p>☆たてわり班活動の充実を図り、たてわり班遊びだけでなく、展覧会での作品作りや宇津木台まつりでの活動など、年間を</p>	<p>B</p>

	<p>合い、高め合う」活動だけではなく、たてわり班活動や行事なども通して支持的風土のある集団形成を図る。</p> <p><u>○Q-Uを活用し、児童理解を深めていく。</u></p> <p>・5・6年生のQ-Uの結果を分析し、教職員で共有するとともに、スクールカウンセラーとも連携して、全児童が安心して学校生活を送れるようにする。</p>	<p>通して充実した活動を行うことができた。</p> <p>☆Q-Uの結果をいじめ対策委員会でも共有し、学校全体で児童理解を深めることができた。</p>	
<p>人権を大切に する児童の 育成</p>	<p><u>○全教育活動を通して、自分も友達も大切に する心の育成を図る。</u></p> <p>・朝会での校長講話や各学年、各学級でも、年間を通して「自分も友達も大切にすること」を意識させる。</p> <p><u>○「いのちの日」を設定し、全学級でSOSの出し方に関する授業やいじめ防止に関する授業を 実践し、「いじめをしない、させない、ゆるさない」の徹底を図る。</u></p> <p>・年1回の「いのちの日」の授業やいじめ防止の授業を全学級で確実に実践する。</p> <p><u>○いじめ対策委員会を毎週実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に組織的に 取り組む。</u></p> <p>・いじめに対する指導については、週1回のいじめ対策委員会と毎週金曜日の生活指導夕会などで組織的に対応を検討しながら進め、丁寧な初期対応と保護者との連携を図っていく。</p> <p><u>○特別支援学級との交流や共同学習、都立 学校との副籍交流などを通して、障害に対する正しい理解と認識を深める。</u></p> <p>・特別支援学級「すぎの子」と通常級の交流については、児童の実態に応じて継続的に行っていく。</p>	<p>☆「自分も友達も大切にすること」は、朝会や宿泊行事、行事などの時に、常に伝えてきたことで、少しずつ意識の高まりがみられてきた。</p> <p>☆「いのちの日」の授業については、全学級で確実に実施できた。</p> <p>☆いじめ対策委員会は毎週確実に実施し、教職員のいじめに対する意識の高まりがみられ、組織的で丁寧な初期対応をすることができた。</p> <p>☆運動会の表現での交流や児童の実態に合わせた教科交流を行うことができた。副籍交流についても、計画的に進めていくことができた。</p>	B
<p>基本的な 生活習慣 の定着</p>	<p><u>○自らすすんで元気よく挨拶できる児童を 育成する。</u></p> <p>・年間を通して、全校朝会での講話や生活指導からの話、挨拶運動を行い、すすんで挨拶のできる児童を育成していく。</p> <p><u>○児童理解を深め、各学年・学級の共通理解</u></p>	<p>☆挨拶できる児童が増えてきて、来客から称赞の声をいただいた。代表委員会では、年間を通してあいさつ運動を工夫して取り組み、挨拶に対する意識の向上を図ることができた。</p>	C

	<p><u>と統一的指導に努め、生活指導体制の充実を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日の生活指導夕会では、全学級の児童を全教職員で見っていく意識を高め、様々なルールに基づいた指導を教職員全体で共通理解しながら統一した指導を徹底する。</li> </ul> <p><u>○家庭と連携して基本的な生活習慣の育成を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇津木台小のきまりを配布するとともに、保護者会等で確認をしながら家庭と連携していく。</li> <li>・セーフティ教室では情報リテラシー教育を行い、SNS宇津木台ルールを作成して家庭と連携を取りながら、自らの身を守る意識の向上を図る。</li> </ul>	<p>☆毎週の生活指導夕会では、学校全体の課題を協議しながら一つの方向性を決め、統一した指導を行うことができた。</p> <p>☆学校から「宇津木台小のきまり」の配信等は行ってきたが、きまりの徹底や情報リテラシーの定着については、引き続き、家庭と連携していく必要がある。</p>	
--	---	---	--

(3) 保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校にするために

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
学校運営協議会	<p><u>○学校運営協議会と地域・保護者が協働した学校運営を目指す。学校コーディネーターを懸け橋として、保護者、地域と協働できる体制を整えていく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校コーディネーターを懸け橋として、学校と保護者地域が保護者、地域が連携しながら、教育活動を実践していく。</li> </ul>	<p>☆放課後算数教室は、今年度も継続して行うことができた。放課後子ども教室には、中学生のボランティアに来てもらうように働きかけ、小中連携の充実に推進することができた。</p>	B
情報公開	<p><u>○学校公開等、保護者が学校に来る機会を設定するとともに、ホームページ等を活用して情報を発信していく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会や学校公開、道徳授業地区公開講座の実施、学校便りや学年便り、ホームページ、Home&amp;Schoolによる積極的な情報提供を行う。</li> <li>・ホームページは、学校での教育活動を知ってもらうために、毎日更新をする。</li> </ul>	<p>☆ホームページは、ほぼ毎日更新し、日ごろの教育活動を配信していくことができた。</p>	B
学校改善	<p><u>○保護者や地域の方の思いや願いを受け止め期待に応える学校改善に取り組む。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会での意見や保護者・地域アンケートをもとに、地域や保護者の意見を参考に、改善できる点については、早急に対応して</li> </ul>	<p>☆保護者アンケートについては、改善策を検討し、早急に改善したものもある。次年度の授業公開については、保護者意見を参考に改善を図った。</p>	B

	いく。		
安全・安心な環境づくり	<p>○<u>自らの命を守れるような児童の育成を図る。</u></p> <p>・毎月の安全指導や避難訓練を確実に実施し、安全に対する意識を高め、自らの命を守れるようにする。</p> <p>○<u>アレルギー対応を確実にを行い、誤食等起こさない組織対応をする。</u></p> <p>・アレルギー研修を行い配膳の徹底をするとともに、保護者との連携を確実にを行い、誤食が絶対ないようにする。</p>	<p>☆安全指導や避難訓練は確実に実施できた。不審者対応の訓練については、夏季休業中に教員研修も行い、充実したものになった。</p> <p>☆アレルギー対応については、年2回の研修を行った。誤食がないように、徹底して対応を行うことができた。</p>	B

(4) 連続性を大切にしている学校にするために

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
保・幼・小連携と小中一貫教育について	<p>○<u>石川中学校区小中一貫教育では、各校との連携を図り、授業公開などを行い、交流を充実させる。</u></p> <p>・小中一貫教育の具体的な取組を確実に実施し、年3回の小中一貫教育の日の充実を図り、円滑に進級できるようにする。</p> <p>○<u>保育園や幼稚園との連携を深め、1年生の不登校0を目指す。</u></p> <p>・1年生の不登校は0という目標を達成するために、近隣の保育園や幼稚園と情報交換や授業観察を実践するとともに、スタートカリキュラムを活用して円滑な接続を図り、保育園や幼稚園との連携を図る。</p>	<p>☆年3回の小中一貫教育の日の取り組みについては確実に実施できた。運動会等での中学生ボランティアの協力などの取組も行えた。</p> <p>☆1年生の不登校は、発熱等の体調不良以外での30日以上欠席0人を達成できた。</p> <p>☆2つの保育園に宇津木台小学校に来ていただき交流を行うことができた。1年生にとっても、保育園児にとっても、有意義な時間となった。</p> <p>△これからも円滑な接続が図れるように、次年度からは、架け橋期カリキュラムを作成し取組んでいく。</p>	B

(5) 一人一人を大切にしている学校

項目	具体的な目標(○)取組(・)	自己評価(☆)今後の取組(△)	達成度
児童の心の居場所となる教育環境づくり	<p>○<u>教育相談の充実を図ることによって児童理解を深め、いじめや暴力の根絶、不登校の対応に努める。</u></p> <p>・教育相談研修を実施するとともに、特別の支援を必要とする児童や不登校児童などについて、</p>	<p>☆教育相談研修や特別支援委員会は確実にを行い、組織的な対応を行うことができた。</p> <p>☆スクールカウンセラーには、勤務の関係で会議に参加しても</p>	B

	<p>スクールカウンセラーや市のスクールソーシャルワーカー等関連機関と連携を図り、対応策を組織的に検討し実践していく。</p> <p>・相談できる大人がいるかというアンケートでは、全児童がいるという回答ができるように、サポートルーム等を活用して居場所づくりを行っていく。</p> <p><b>○不登校や不登校傾向にある児童に対して、一人一人に寄り添った対応の充実を図る。</b></p> <p>・サポートルームを整備し、個々の課題に応じた丁寧な対応を行い、外部とつながりのない不登校児童はいないようにする。</p> <p><b>○すぎの子学級やこみっきいにおいては、一人一人の心身の発達段階に即した個別指導目標を設定し、障害の程度・課題に応じた指導の充実を図るとともに、保護者との連携を密にする。</b></p> <p>・個別指導目標をもとに、保護者との面談や日々の連絡などで、連携を図りながら教育活動を進めていく。</p>	<p>らうことは難しかったが、スクールソーシャルワーカーには、特別支援委員会に参加してもらい、協働して進めることができた。個別に連携も図り、対応することはできた。</p> <p>☆相談できる大人がいるというアンケートでは、2月のアンケートで、9人の子供たちがいないと回答した。引き続き、子供たちに寄り添った指導を行っていく必要がある。</p> <p>☆サポートルームの改善を計ったり、組織的に対応してきたことで、不登校傾向の改善が図られたりした事例が多くあり、成果を上げることができた。外部につながっていない児童は0人であった。</p> <p>☆連携型個別指導計画を作成し、面談や連絡を密に行いながら、進めることができた。</p>	
--	--	---	--